

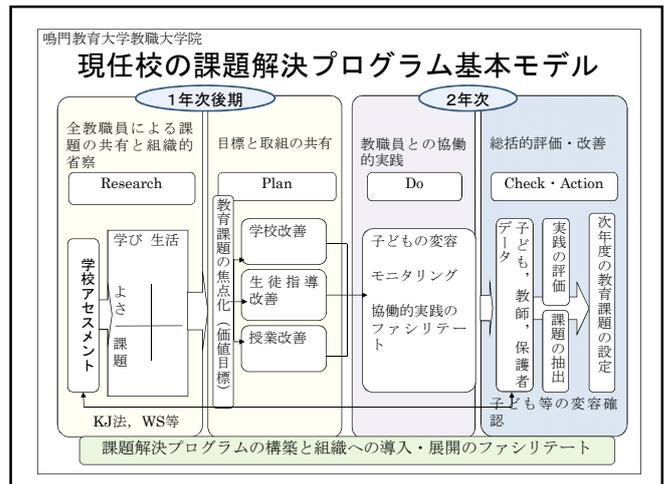
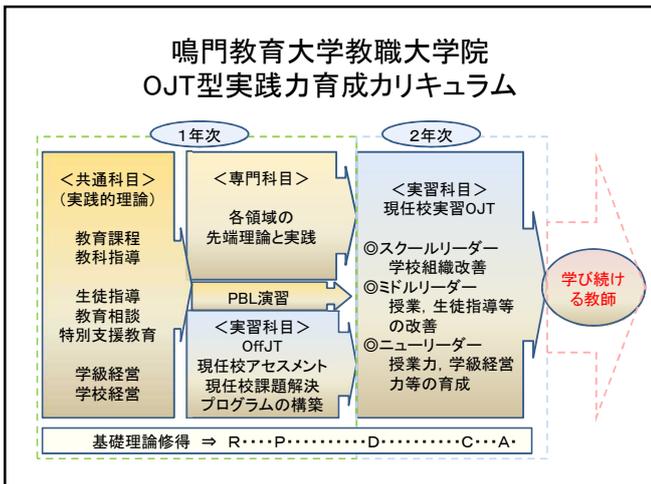
OJT型スクールリーダー育成プログラムの開発的研究
 —鳴門教育大学教職大学院における現任教実習を通じた実践研究—

鳴門教育大学
 教職大学院
 教授 久我直人

鳴門教育大学
 教職大学院の位置づけ

<平成20年度設置>
 目的;①教職実践力の高度化(現職教員)
 ②教職実践力の養成(学卒者)

鳴門教育大学教職大学院
 現職教員35名定員
 学卒者 15名定員
 平成26年度7期生を迎える(1~5期生修了)



教職実践力高度化のための
 カリキュラムの特徴

◎現任教の改善を通じたOJT型実習科目

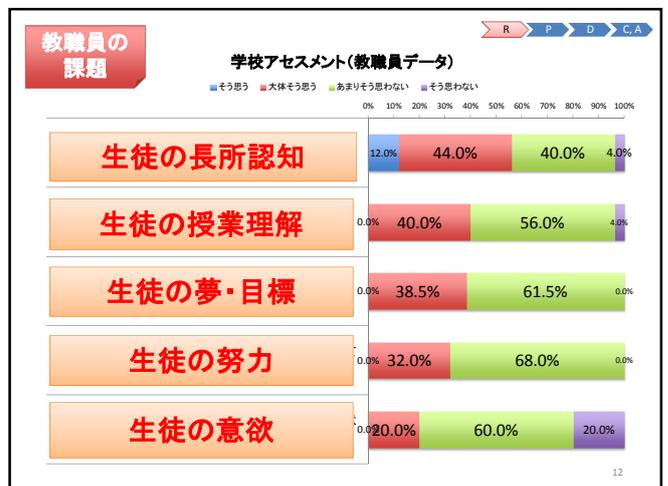
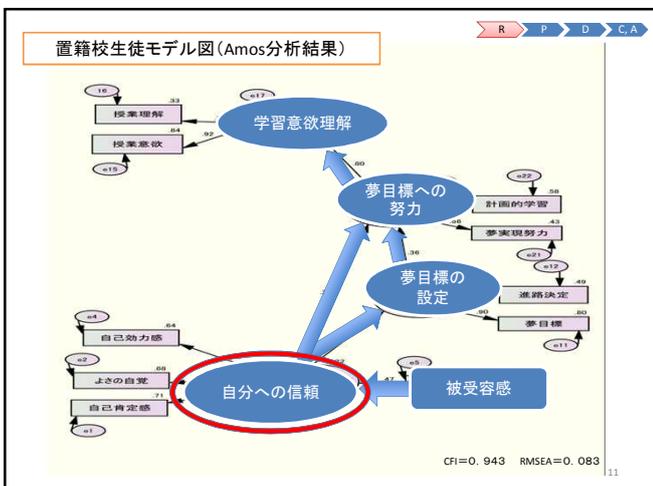
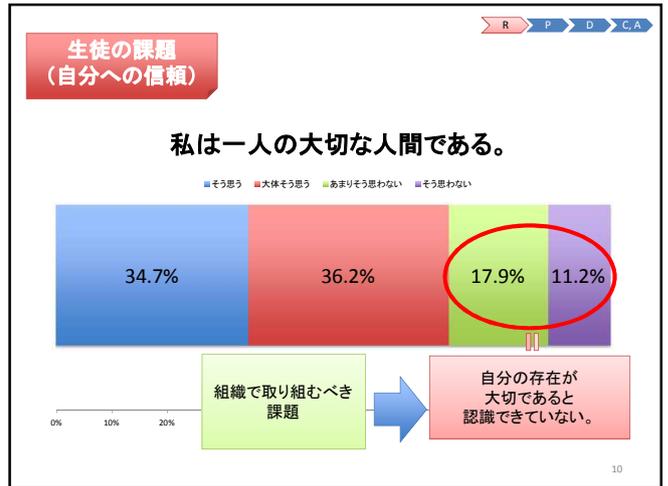
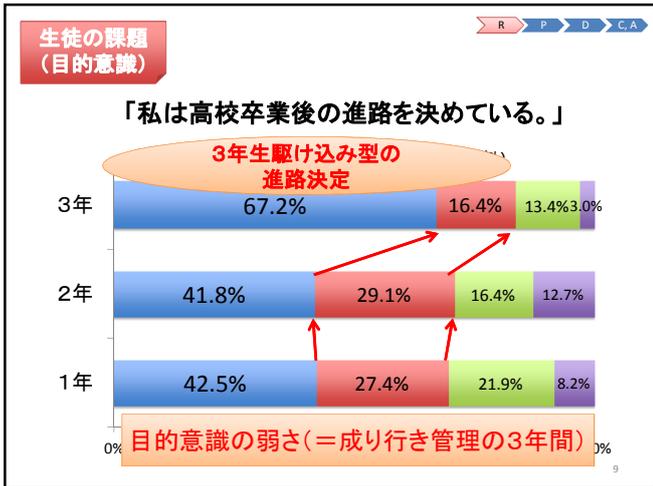
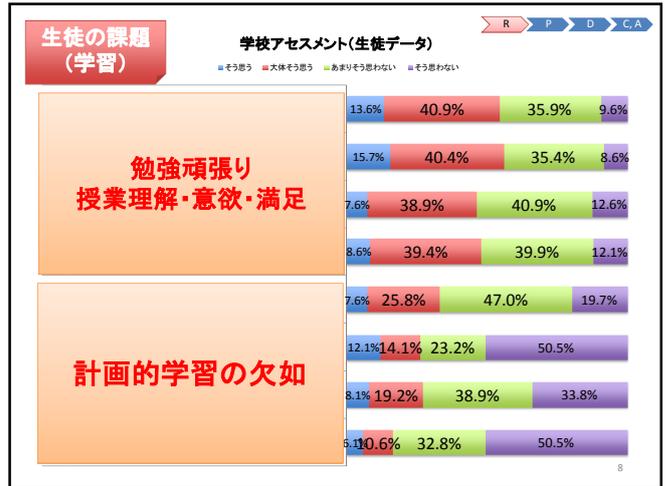
- ①学校アセスメント
- ②データに基づく学校課題分析
- ③課題解決プログラムの構築
- ④課題解決プログラムの学校組織への導入
- ⑤現任教の改善の検証

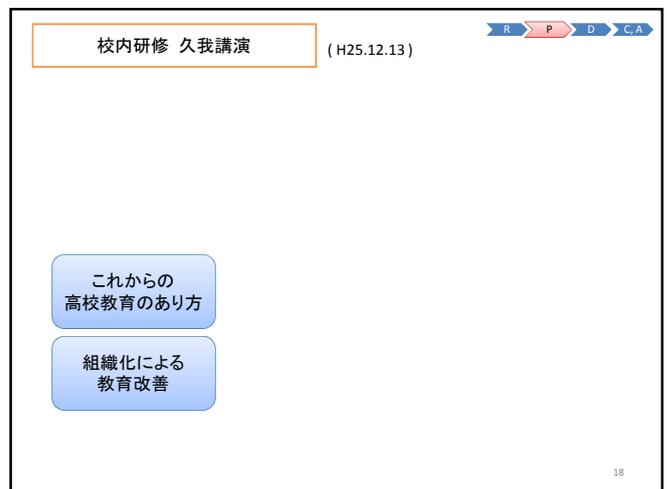
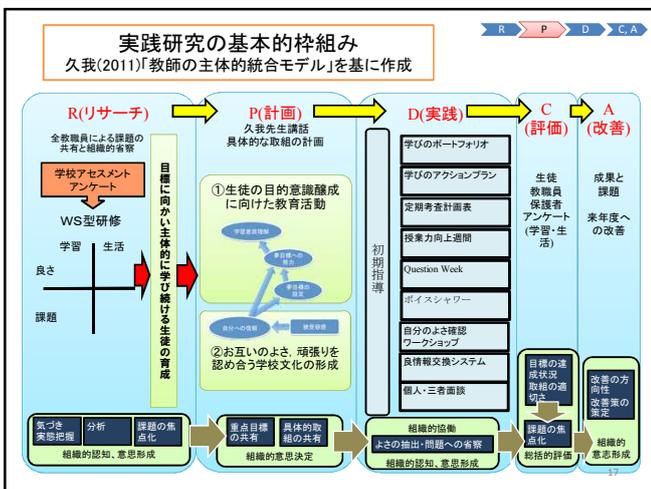
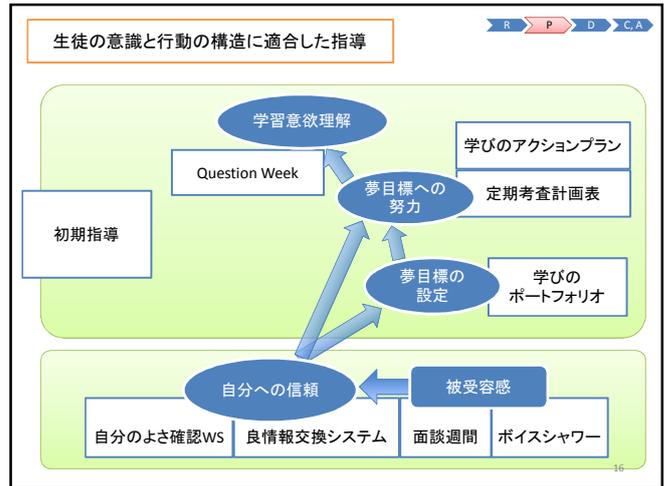
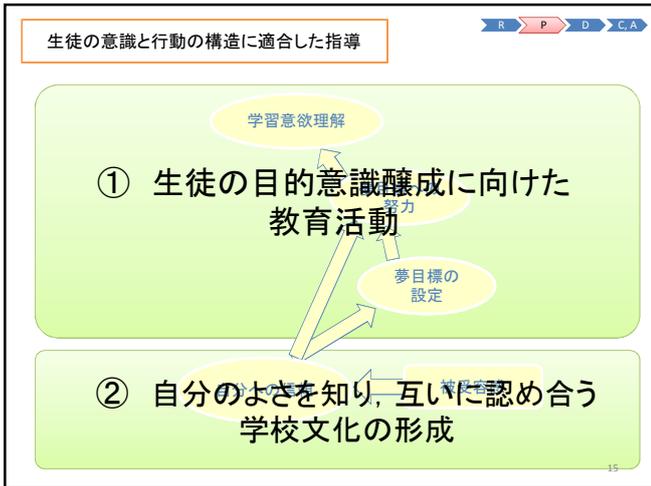
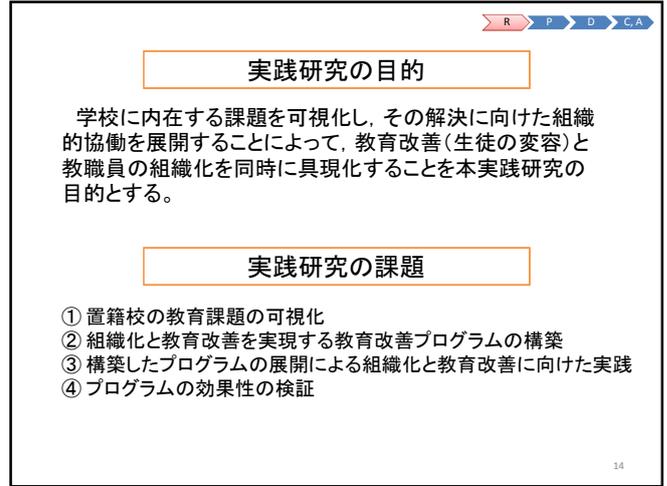
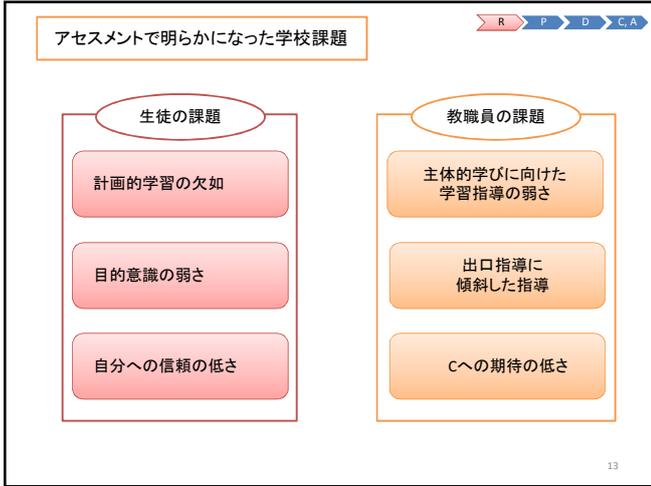
(①, ②, ③=1年次, ④, ⑤=2年次)

A高等学校
 学校の教育課題解決に向けた組織的協働の展開
 —生徒の目的意識醸成を軸に—

・全日制普通科高校
 ・全校生徒172名(1年2クラス, 2・3年3クラス=合計8クラス)
 ・教員数25名

鳴門教育大学
 教職大学院
 院生 有澤 拓也
 指導 久我 直人





校内研修 WS型研修
生徒のよさと課題に基づく学校課題の焦点化 (H25.12.13)

R P D C.A

概念化シートを用いて
生徒のよさと課題を整理

19

参加した教職員の感想

R P D C.A

- ・自分自身、A高校だからと慣れていてことに気づいた。生徒のよさを引き出せるようにがんばりたい。
- ・課題の焦点化はとても大切だと思う。来年に向けて具体的な取り組みの検討が必要だと思った。
- ・分かりやすく、有意義な研修だった。できるだけ早く取り組みたい。
- ・こういった機会に他の先生方と意見を共有できたことがとてもよかった。
- ・教員と生徒間の信頼関係構築の重要性を改めて感じることができました。

20

学校課題解決に向けた組織体制

R P D C.A

未来プロジェクト	課題① 自分への信頼	課題② 目的意識醸成	課題③ 計画的学習	課題④ 規範意識醸成
進路指導部 夢目標づくり	・自分のよさ確認WS	・学びのポートフォリオ ・面談、面談記録表		
生徒指導部 規範づくり	・勇気づけ、価値づけ ・ボイスシャワー ・良情報交換システム			・初期指導(ルール、マナー) ・立哨指導
教務部 学びづくり			・取り組みの企画、運営	
生徒会 学校文化づくり	・お互いのよさを認め合う学校文化づくり		・各分掌の取り組みのPDCAサイクルを点検	

プロジェクトチーム編成

・学習規律と生活規範の徹底

・学習規律・生活規範に関する自主的活動

21

組織的展開のイメージ

R P D C.A

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習・生活ルール徹底ステージ												
学び充実ステージ①												
イベント実行ステージ												
学び充実ステージ②												
チャレンジステージ												
感謝、再出発ステージ												
夢目標づくり(進路)	学びのポートフォリオ 学びのアクションプラン											
規範づくり(生徒指導)	ボイスシャワー 良情報交換システム											
学びづくり(教務)	計画的な学び① 定期考査に向けて	1学期振り返り	2学期目標設定	資格・検定への準備、挑戦		計画的な学び② 資格・検定に向けて	1年間の振り返り、目標再設定					
学校文化づくり(生徒会)	仲間づくり マナーを身につけよう	自学の習慣を身につけよう	体育祭を成功させよう	得意・技能を伸ばそう		計画的な学びを進めよう	先輩への感謝(1,2年)	学校への感謝(3年)				

生徒の意識と行動の構造に適合した『効果のある指導』

R P D C.A

初期指導
学び方
生活規範

学習意欲理解

Question Week

夢目標への努力

夢目標の設定

学びのアクションプラン

定期考査計画表

学びのポートフォリオ

自分への信頼

被受容感

自分のよさ確認WS

良情報交換システム

面談週間

ボイスシャワー

23

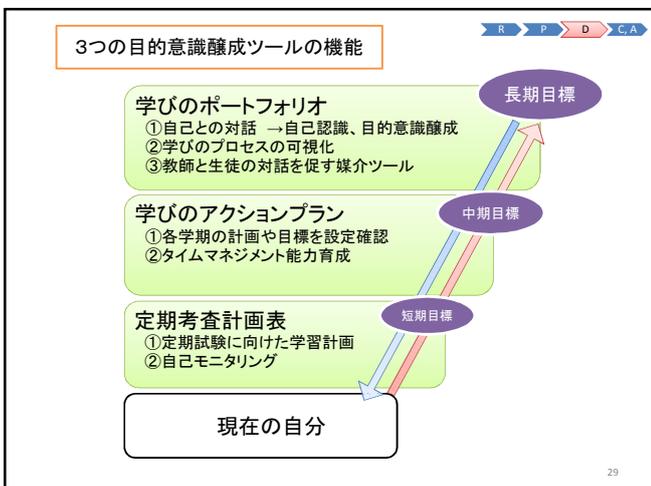
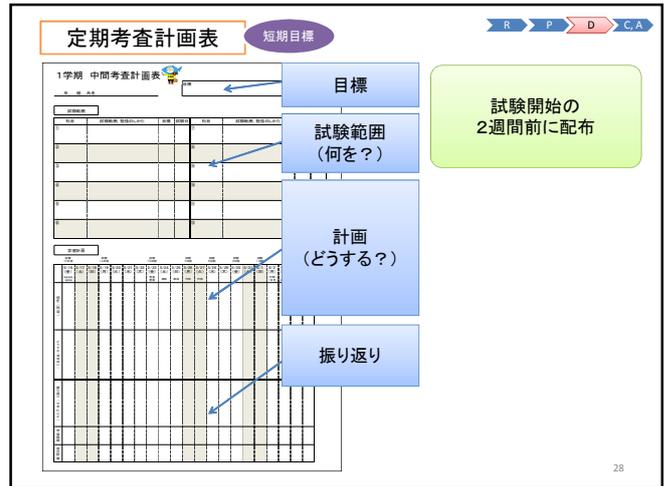
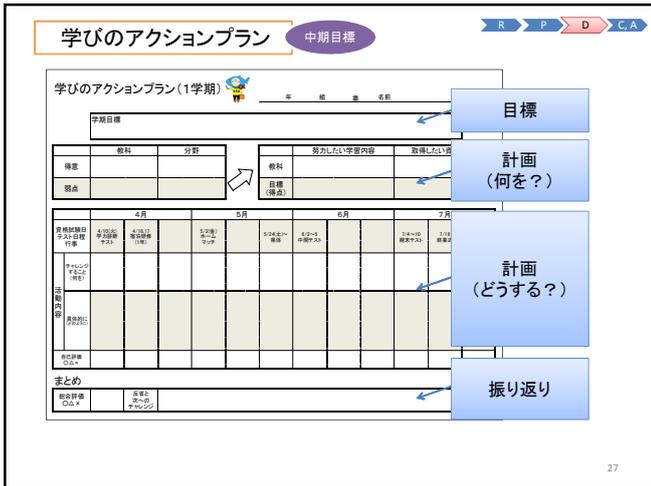
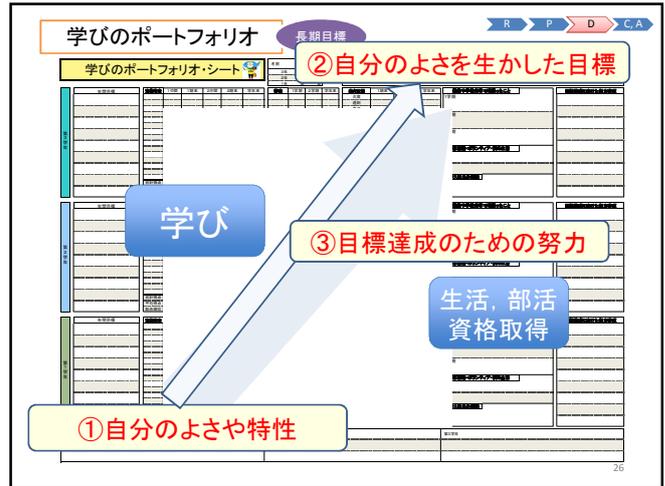
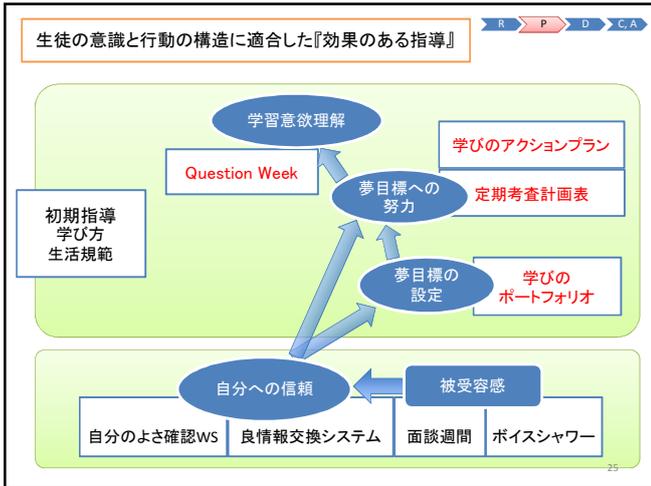
初期指導

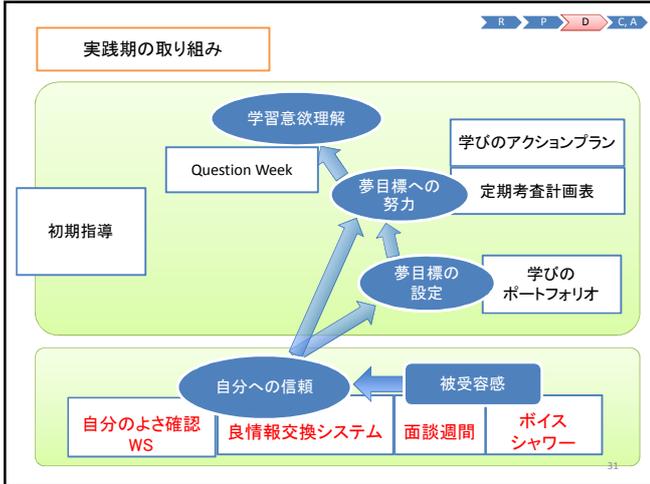
R P D C.A

学び方指導

生活指導

24





自分のよさ確認ワークショップ (H26.4.16)

参加生徒全員で35人のよいところ探し

自分のよさ確認ワークショップ (H26.4.16)

生徒の感想

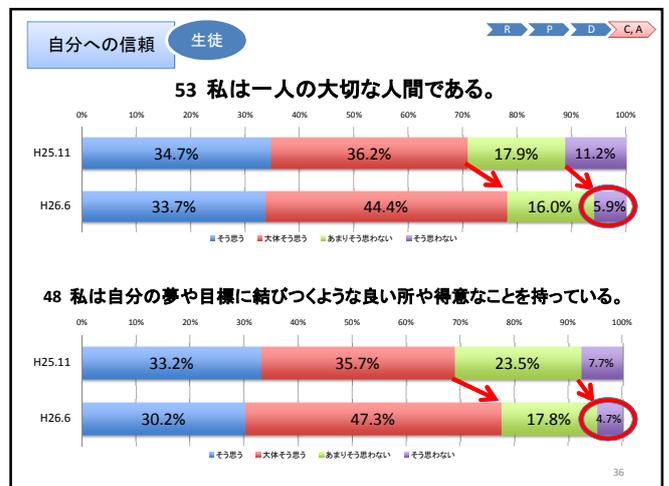
- ・皆、自分のいいところを見てくれて嬉しいなと思いました。私もこれから今日書かなかった人たちのいいところを見ていきたいです。
- ・自分のためになった！「自分」っていうのが再確認できた。またこんな授業をしたい。
- ・とてもよい時間になったと思います。いろんな人の意見が聞けてとても有意義なワークショップになったと思う。
- ・自分のいいところを他の人の目線から知ることができて自分では気づかなかったいいところに気づけた。
- ・自分の長所をみんなが書いてくれて嬉しかったです。いい授業でした。

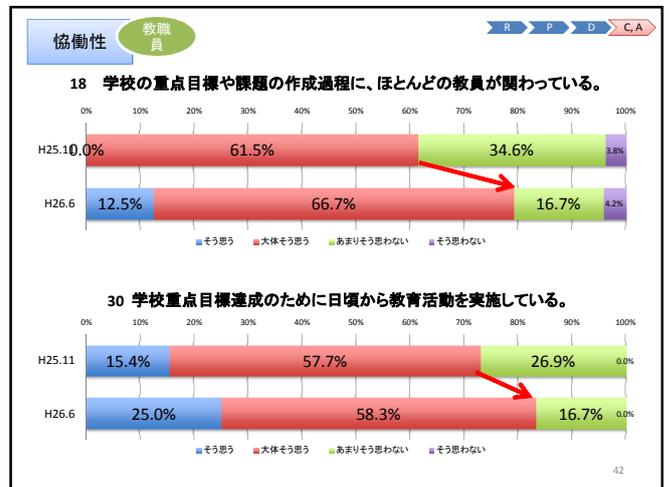
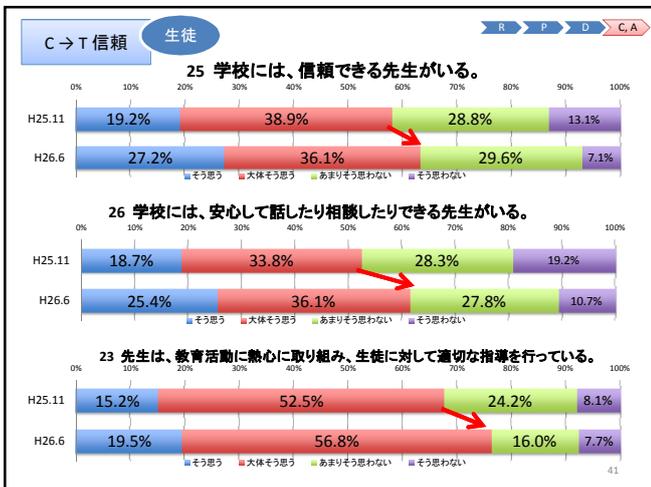
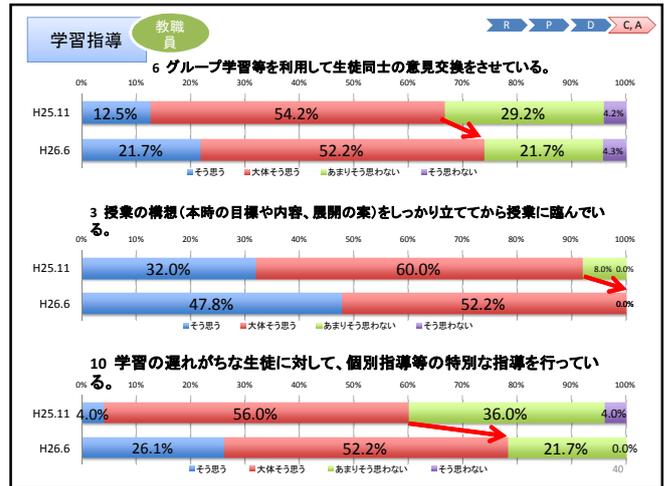
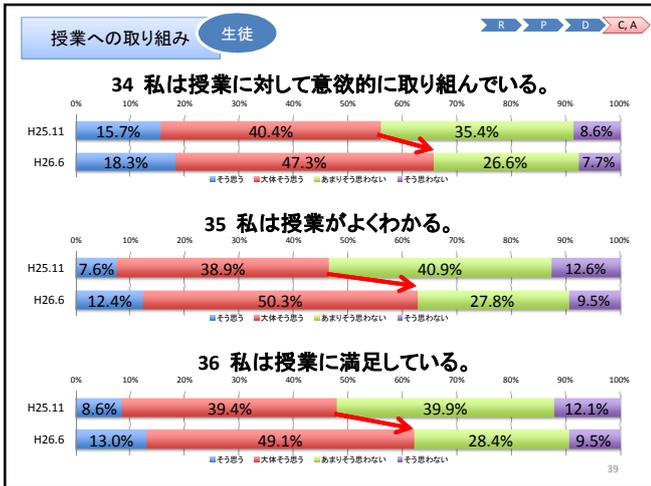
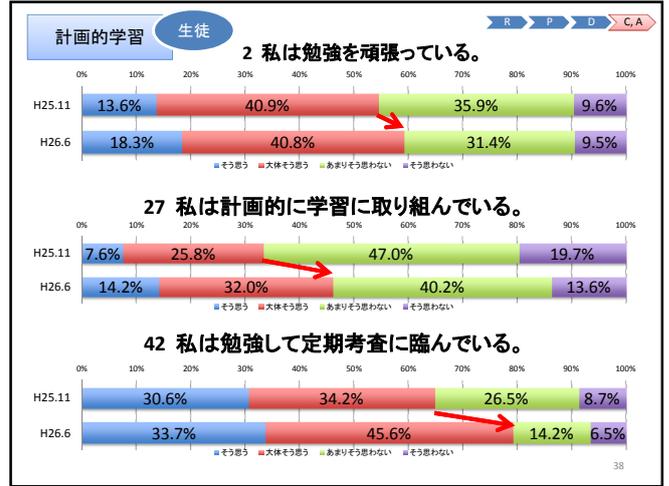
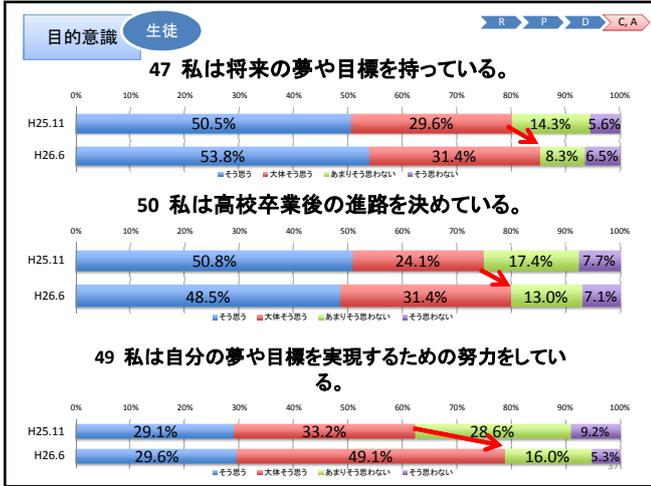
良情報交換システム (H26.5.8～)

掲示板の前で足を止めて確認する生徒たち

面談週間

よさの自覚化と目標に向けた具体的努力を促す面談週間を設定





生徒の変容と教職員・組織の変容

生徒の変容

Ex)学力向上



教職員一人ひとりの意識と行動の変化
教職員の組織化の促進

本学教職大学院院生の学び

- ①現任校のアセスメントを通して、学校の課題を鳥瞰的にとらえる視点と方法の修得
- ②現任校の課題に適合した改善プログラムの構築方法の修得
- ③教職員の教育意思を「組織化」することによって、効果的に「教育改善」を生み出す組織マネジメントの手順の修得
- ④組織や子どもの変容を評価、検証する方法等の修得

現任校校長・教委担当者のコメント

鳴教大教職大学院の優れている点と課題

- ◎現場の学校課題を改善する取り組み。
 - ◎教員の視野が広がる。マネジメント能力が身に付く。
 - ◎現場の感覚を大事にしている実習内容である。
 - ◎院生の研究実践が、現場の学校経営や運営に大いに役立っている面が認められる。
 - ◎スタッフが充実しているので、指導等がしっかりと行われている。
- △指導教員による指導の差違⇒チーム指導体制